



ネパール・ミカの会

平成13年夏号 NO.14 06.01発行

ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 こもれび堂内 tel 042-793-4170

仏跡と「ミカの会」

ネパール・ミカの会
会長 齊藤 謹也

仏跡とは二種類あります。

それは「仏陀の遺跡」と「仏教の遺跡」ですが、仏陀の遺跡とは、釈尊がそこに生前足跡を印した土地です。そのうち、生誕地ルンビニ、成道地ブッダガヤ、初転法輪地サルナート、涅槃地クシナガラが四大仏跡ですが、その他、父の居城カピラヴァストゥ、マカダ国首都シーギル、祇園精舎のサハート、舎衛城（コーサラ国）のマヘートなどが、重要な仏跡とされています。仏教の遺跡は、佛教が栄えた寺院や場所であり、サンチー、ナガルジナコンダ、アジャンタ、エローラ等のインド仏蹟だけでなく、先ほど破壊されたバーミヤンの石仏など、その後伝播した地域・仏教遺跡も全てこの「仏教の遺跡」となります。

ところで、この四大仏跡のうち、成道の地ブッダガヤは、多くの仏教団体が関与して大塔周辺に寺院を建てています。又、インド・マイトリの会が、涅槃の地クシナガル州全体を含めて、学校建設、教科書支給などの教育支援活動も行っています。ところで、わがミカの会が支援するルンビニは、公園整備もすすみ出し、各国の佛塔、寺院も建ち始め、政府の観光資源としての見直しもあって、着々と整備が進んでいるようにみうけられます。四大聖地の筆頭である生誕の栄光を担うルンビニは、まさに変わりつつあるのです。私が初めて訪れた昭和53年1月初旬のこの地は、全くの寒村。わずかに、マヤ聖堂附近と池、チベット寺院やネパール寺院はあったように記憶しますが、それ以外は全くありませんでした。

整備計画は、いろんな問題をはらみながらも、必ず50年後位には、立派な世界文化遺産として、観光客、参拝客が絶えない地となるでしょう。しかし、その周辺の村々は、と目を転ずると、あれだけ豊かな農地が広がっているにもかかわらず富める者と富まざる者との差は、実に大きいのであり、又、その差はどん



どん広がるばかりといわれています。私達が始めた教育支援も、ほんのわずかな雨であり、なかなか作物は育たぬようにみえました。しかしながら、第5次教育支援の旅を今年終えた感想には、少しずつ、少しずつ、教育への関心や高まりがみえてきたように思います。そして、「自分達の学校」という意識は、中学校新設の過程で飛躍的に高まってきました。やはり「継続は力なり」が実証されている感がいたします。加えて、本年度の職員室整備及備品の贈呈によって、いままでの援助校も、「学校らしさ」を増しています。

100名ほどの小さな団体。それが、仏跡第一に常に挙げられる釈迦生誕地ルンピニにこだわり続ける限り、私達が思っている以上の成果があげられるのではないかと思います。しかしながら、「出会いのミカ」の本領も発揮して、感性を磨きつつ直観を信じて、柔軟に「出会い」の縁を大切に、行動に移していく事も忘れてはならないことと思います。

第五次教育支援の旅を終えて

ネパール・ミカの会

会長（団長）齋藤謹也



マズワニ中学校新設を支援して建築ができ上がり、その校舎引き渡しをメインとする第五次の旅をしてきました。あとは例年通りの各小学校訪問、翌年度支援候補校の調査。そして、タンセン市における図書、実験備品の贈呈と今年の旅は、慣れもあり、楽だと思いこんで気楽に 出発しました。

しかも、昨年の団員の多さに比し、今年はミカの会々員六名。全員二回目以上のネパール行き。カトマンドゥに着いた所まではその通りでしたが、翌日の大使館訪問や、パドマカニヤ女学校訪問では、なかなか大変だと思ひ始め、ルンピニの中学校校舎引き渡し式では、さすがに「中学校」。村民の期待度の高さに、これが、いつものマズワニ村かと教育への熱意が飛躍的に高まっている事を実感しました。特に、理事長の演説中、実は開校にあたり政府に十五万円（日本円で）積み立てる必要があり、しかも、それがなければ正式開校として、教員の派遣がない事を知りました。そうすると、この金額をミカの会に又支援をというのかと思ったら、そうではなく、既に村人から募金して十二万円程集まっており、あと三万円であり、自分達の手で何とかするという強い意志が表明されました。貧しい村である事は、行った人がみなすぐに分り、見なりや生活ぶりに表れています。その中で、『自分達の学校』としての自覚がこの募金に表れていると思われ、感激しました。

中間調査の際、この中学用地が少し民有地にはみ出している事が判明しましたが、隣地の地主の好意ある提供によって解決した事や、地元女子達の中学進学への期待の高まりなどの報告がありましたが、今回の旅においても、確実な教育への関心の変化がみられたように思われます。特に、ヌルブ・ラマ君の校舎建設も実に堂に入り、レンガを前面に使用した瀟洒な建物は、この村自慢の建物となって、村人の意識向上に大いに役立ったように思われます。そして、各学校への補助の「職員室の整備」。これも、実に学校らしくしてくれておりました。今回は子ども達へのプレゼントはなく、学校へのものにしてしようと考えていたので、アメだけ現地で買っていったのですが、これは、やはり、前回までのほうがよかったように思います。ついつい、日本の流儀で、プレゼントは教育上よろしくないなどと論議してしまいましたが、カトマンドゥやタンセンではいざしらず、この貧しい村民の子どもにとって、ノートや鉛筆などは、教育上かせないもののように思われました。

たとえ、一人の子が何回か手を出しても、それを注意する子ども達も確実にふえているように見受けられました。調査した二校も、建設の必要性を強く感じましたが、だんだんと、この地の学校建築主体から教育内容整備の支援に移行していく事が、重要という認識も、強く感じました。

教科書、教師用指導書、教材の不足 劣悪な学校設備 教員の訓練不足 教育行政の地方への不徹底という、指摘されるネパールの初等、中等教育の問題点について、特にこのルンピニ地域において、強く感じられま



その為、ミカの会に他の図書支援校（文系、理系、専門学校等）と同様な支援を依頼されてしまいました。この建設予算との落差に驚きが禁じえませんでした。また、トリヴァン大学の教授であり、かつ専門学校の学長、又は理事長であるといったように、重複して頑張っておられる事を知りました。従って、指導教授・研究者の育成も急務であるように思われました。

チトワン自然公園では、珍しく動物達と会えず、最後に徒歩で帰る途中、サイに会いました。さすがに象の上に乗っている時とは違い、サイは大きく威厳がありました。野生はいいですね。

帰国日も間近にせまった中、大使館の面会も決定して、おたずねしました大使館の警備はこんなに厳重にしなければいけないのかと素朴な疑問を抱きつつ、中に通されての会見は、実にまたなごやかなものでした。

ネパールでの支援上のご注意も、ほぼ私共が気をつけて実践しているものであり、私達の活動に大きな自信にもなりました。パドマ・カニヤ女学校々長から個人的に依頼された六名の奨学金も、ホテルにてお渡ししました。（帰国後、全員の教育里親も決まりました。）いつもネパール行。でもいつもとはまた異なった内容が詰まったネパール行。同じで同じでない事を実感します。今回は「出会えなかったヒマラヤ」。

会えるよい時期を選んできたいものです。でも、一週間の旅程では、この援助支援の旅、忙しすぎるようになりました。疲労がピークに達した団員もありました。

「年かな」と言わずに何かうまい方法を今後検討しましょう。

第五次ネパール教育支援の旅 報告

青沼 義信



第五次ネパール教育支援の旅は、2月28日から3月7日までの日程で実施されました。参加者は会長以下6名及びラマさんの総数7名と少人数で多少寂しさを感じましたが、ラマさんの万全な下準備に加え、全員の献身的な協力により今回の旅のメインであるシリ・マズワニ中学校落成式や、2001年度の校舍新築候補2校の視察・計測をはじめ所期の活動目的を無事に果たす事ができました。しかし今回の日程の

中間に土曜・日曜日を挟んでしまった事で、一部学校が休みになってしまい、生徒、学生に会えない学校があったことはとても心残りでした。

今回の旅は参加者が少ない事で『全員が先生や学校関係者をはじめ生徒達との近距離の交流ができ、より一層の親近感を持つ事ができた』『お互いの協力体制がスムーズに行えた』『より効率的な行動ができた』等々、少人数なりのプラス面が最大限に発揮できたように思えますが、それだけに緊張感が続き、カトマンドゥでのバザー用品仕入れで店回りをした時には、さすがにみなさんバテバテの状態で少人数での限界を感じました。

参加のみなさん、ほんとうにご苦労様でした。

参加者

会長 斎藤 謹也・ 和田 泰子・ 松浦 陽子・ 片岡 貞・ 濱崎ヤスエ
青沼 義信・ ヌルブ・ラマ （敬省略）

日程及び訪問先

3月 2日(金)・ルンピニ [法華H泊]
 *シリ・マズワニ中学校 校舎(3教室・1職員室)落成・贈呈式
 *シリ・マズワニ小学校 職員室内改装・机・椅子・書庫・文具
 *シリ・ルンピニ小学校 職員室内改装・机・椅子・書庫・文具
 *シリ・シリ・ラム小学校 職員室内改装・机・椅子・書庫・文具
 *シリ・グルワニマイ小学校 職員室内改装・机・椅子・書庫・文具
 *マズワニ医療保健センター 医薬品・消毒薬・ガーゼ等寄贈
 *シリ・アディアリ小学校 校舎(4教室1職員室)建築候補。計測
 *シリ・ハジエナエトウラ八小・中・高等学校 校舎(5教室1職員室1実験室)
 建築候補・計測

注：マホマディア小学校は休校のため学校前通過にとどめ訪問はしませんでした。

3月 3日(土)・ルンピニ～タンセン [シリナガル・H泊]
 *トリブヴァン大学(文系校) 専門図書贈呈・歓迎式
 (郡長・学長はじめタンセン学校関係者多数出席)
 *シリナガル・サイエンス校 専門図書贈呈
 図書・計測実験器具(リコー光学提供)
 *モホン女子校 図書・文具・遊具贈呈
 花巻市立前田小学校との交流依頼
 *C. B. R. (身障者支援団体) 支援要請・遊具贈呈

3月 4日(日)・タンセン～チトワン [アイランド・ジャングル・リゾート泊]
 *トリブヴァン大学(理系校) 改装なった図書館にて専門図書贈呈
 図書・計測実験器具(リコー光学提供)
 *ミレニアム・ハイヤル・セカンダリー校(2000年開校校) 初訪問校
 トリブヴァン大学学長より支援要請。図書・文具・遊具贈呈
 *セン小学校
 *昼食後チトワンへ...

3月 5日(月)・チトワン～カドマンドゥ [ヴァイシャリ・H泊]
 *チトワン国立公園野生生物保護区にてエレファント・サファリ観光で英気を養う

3月 6日(火)・カトマンドゥ
 *在ネパール日本大使館 全員で訪問、佐藤一等書記官と面談
 *パシュパティナートなどカトマンドゥ市内観光
 *バザー用品などショッピング
 カトマンドゥ空港(RA-411)にて帰途へ

3月 7日・(カトマンドゥ)～関西空港(NH-144)～羽田 町田にて解散

資金カンパ・お願いと御礼の旅。

今村 旭

これに対し会社側は心良く、朝礼でのカンパのよびかけや、支援全体の社員への周知について早速とりかかりましょうと、社長さんがカメラをとり出し、記念撮影となり、すぐにホーム・ページに載せますと、本当にミカの会に対して協力をさせていただく態度に感動しました。その後のカンパ資金の送金と、光学器材の提供については、もう会員の皆様のご存知の様な結果となり、図書支援や、現物はすでに本年3月のネパール訪問団に託され、十分な活用がされました。これらの事は大谷氏のリコー光学社長在任時代の業績の高さと、その人徳が大いに物を言った事と、あらためて感謝の気持ちで一杯です。

さてこうした会の活動について多大なご協力をいただく事に対しての報告や御礼の件は会としても、今後の継続性の見地からも、タイミング良く、もらうばかりでなく、現地でどれだけ助かっているか、又学生や大学関係者が図書の活動に本当に有効に力を発揮して支援の結果が、成果を上げている状況を相手方にきちんとお知らせする事が大切だと思います。四つ葉会の布の手製の袋も同じ様に、あんなに努力して沢山の支援を行ってくれている事に対して報告と御礼を充分にしているかという、多少反省、改善すべき点も有ると思います。今後の問題として全ての協力をして下さる方々に、結果報告と感謝の気持ちを相手方に伝わり、さらにやる気を出していただく様な方法を皆で考えてみましょう。

三回目のネパールにて

青沼 義信

昨年第四次教育支援の旅に初めて参加させてもらった後、10月にはなぜか中間調査の一人旅、そして今回の第五次の旅と、一年間で三回のネパール訪問となりました。一回目の旅では、ネパールの知識がヒマラヤとシェルバくらいで、もちろん釈尊ブッタの真の生誕地とは知るべくも無く、ルンビニでマヤ聖堂.菩提樹.シッダールダ池など連れていっていただきましたが、観光地としての感覚で見ただけで感動はほとんど持たず、むしろダンパスからマチャブチャレ.アンナプルナ山群.ダウラギリなどのヒマラヤの山々を手取るように眺められた事の方に大きな感動がありました。そして子供たちの純粋さは見られたものの、半世紀以上タイムスリップしたような 人々の生活から、私の少年期の戦中戦後の生活を見ているようで切なさを感じただけでした。しかし中間調査と今回の第五次の旅で人々と直に接する機会が多くなったこと、また数か所の寺院や遺跡に連れていっていただいた事で、この国の日本の仏教にもたらした歴史的背景や、人々の融通性に欠ける程の純粋さに親しみを覚え、それまでは遠い国であったネパールがいつのまにかとても近く感じられるようになり、今回マヤ聖堂を訪れ齋藤会長が読経された時には、日本の寺社で祈る時のように、合掌し頭を垂れていた自分に気付いたとき、改めて自然な自分の姿を見つめ直しました。カトマンドゥ空港でいつものようにラマさんのお迎えを受けましたが、妹のジャンモさんまでが笑顔で迎えてくれ、故郷へ帰って友人に会ったような懐かしさと、暖かさが胸に沸き上がのを禁じえませんでした。



これに似た気持ちは、旅の間でたびたび感じる事になりました。

シリ.マズワニ中学校に寄贈の校舎落成式が終わって、隣にある、すっかりきれいになったシリ.マズワニ小学校の職員室でマズワニ村村長からカラフルな色彩に編み上げた大小二点の籠を贈られました。この籠が村人の手作りで自分の家庭で使うか、知人に贈るもので、土産物屋などで売るために作っているものではないことを聞き、心のこもった貴重な品を贈ってもらったことに、援助する者、援助される者を越えた気持ちの通じあいのようなものが感じられ、とても嬉しくなりました。この日はマズワニ中学校の落成式の後、他の援助校や来年度に新築を希望しているシリ.ハジエナ.エトウラ八小.中.高等学校での計測、医療保健センター訪問などで遅くなり、最後の訪問校シリ.グルワニマイ小学校に着いたのが四時半を回っており生徒



しかし私達が車から降りた途端、こどもたちが叫びながら駆け寄って来、みるまに四十人ほどになり、口々に「今日は金曜日で授業は昼までだったが、ミカの会が来るというので四時まで待っていたんだ」と言うのを聞き、申し訳ないやら、嬉しいやら。会えないのではと思っていたこどもたちに会い、本当に嬉しかった。

タンセンでは、塩屋の娘たちやカルナちゃんなど私にとっては孫達？娘達？との再会も嬉しかったのですが、会った早々、トリヴァン大学の先生方も言われていた「今村先生のお体のぐあいはいかがですか」との言葉を娘達からも聞くに及んで、日本のミカの会との交流がここまで深くなっていたことに感慨深く、先輩諸氏のかかわりに深い感謝の念を持つと共に、このような国を越えた深い関わりは、広く浅くの付き合いではできる筈もなく、お互いの真心が通じ合ってはじめて出来るものであることを痛感いたしました。今後もこの心を大切に、私の信条にして活動していきたいと思っております。

その他今回特記すべき事は、チトワン国立公園で野生の鳥達や動物達に出会った事とネパールの地酒「ロキシー」が手に入った事です。三月四日予定の学校訪問をすべて終えた午後、タンセンからチトワンに向かいナラヤニ川をカヌーでナラヤニ川最大の中州にあるH.アイランド.ジャングル.リゾートに渡りました。川にはカモやカワセミなど大小の水鳥たちがのんびりと遊んでいるのが見られ、忙しかった学校訪問を忘れゆったりとした時を楽しみました。特に、夕暮れの河畔のベンチに掛け、静かな川の流れるに遊ぶ水鳥たちをウォッチングしながらのビールの味は最高で、極楽気分を満喫しました。夕食前、ホテルの中庭でタルー族のスティック.ダンス.ショーがあり、ショー最後にゲスト参加のダンスが始まりましたが、ミカの会全員参加で踊りの輪に入りました。中でも片岡さんのさすが現役！の踊りは、私たちとはひと味違う動きをされていました。

翌朝、トラに会える事を楽しみに、一時間ほどのエレファント.サファリーを楽しみましたが、数多くの野鳥とさる等には会えたものの、残念ながらトラには会う事ができませんでした。しかしエレファント.サファリーを終えホテルの帰途、サイが目の前に現れこわごわながらも見る事ができたのはサイワイ

でした。トラは次回以降の楽しみとしてとっておきます。とにかく楽しいチトワンでした。「ロキシー」は、初回訪問の際レストランでいただいた味が忘れられず、中間調査の際探し歩いたのですが、日本の自家製「どぶろく」のようなもので市販はされていないと聞きあきらめていましたが、ラマさんが今回カトマンドウで案内してくれた車の運転手さんにロキシーを売ってくれるところがないか聞いたところ、運転手さんの自家製を分けていただけるとの事、ペットボトルに一リッターづつ快く譲っていただき、念願は適い感謝、感激でした。



しかし折角念願適って手に入れたというのに、帰国後そのほとんどを友人に飲まれてしまい、揚句のはてに「ネパールにこんなに旨い酒があるとは...？今度行ったらもっと買って来い」には腹が立つやら嬉しいやら。

今回の旅の参加者は会長以下六名と少人数で多少の寂しさと、当初体調不良の方もおり不安がありました。皆さんの頑張りでお互いの協力体制がスムーズに行われ、効果的な行動ができたことで、少人数なりの充実した旅であったようにおもいます。しかし最終日のバザー用品仕入れで店をわたり歩いた時には、みなさんさすがにバテバテのようで少人数の限界をおもい知らされたようでした。参加のみなさん、ラマさん&車を運転してくれた二人の運転手さん！お世話になりました、そしてほんとうにご苦労様でした。



さくらまつりに参加して

加藤 雅子

心配していた天候も、両日共、晴天に恵まれ、ホッとしました。満開の桜が、ハラハラ散り始めた尾根緑道は、多くの人々で埋つくされました。今回は、場所決めのくじ引きを引き受けあの場所になり、売り上げには貢献できたのか、わかりませんが、隣のグループには恵まれたと思っています。「まぐろの串焼き」というメニューもなかなかですが、売り声の迫力に驚き、早々に売り切れたのを見てミカの会もメニューには、ひと工夫が必要と反省しました。そして、ミカの会の分まで大声を出して協力して下さり、楽しく笑いの声の絶えない二日間でした。

「夢の記」第5集を読んで、ネパールの方々のミカの会に対する期待が益々強くなっているとの事、そのためのお手伝いを少しでもできればと感じ、これからも自分らしく無理せず楽しみながら、ミカの会の活動に参加していきたいと思っています。

小林 公子

三月二十八日友人と上野の西洋美術館と上野の森美術館に行った帰りの道満開の桜を満喫しアメ横を経てライトアップして美しいとテレビで聞いた駒込の六義園のしだれ桜を見に立ち寄った。

しだれ桜は普通の桜より一週間位早く咲き一週間早く散ると聞いた事があるが、その通りで、もう盛りを過ぎていてあと一両日で終わりの様な気がした。町田の桜祭りは四月の七、八日なので果してそれ迄咲いているのだろうか各地での満開の話の聞いたたび心配だった。と云うのも今年は加藤雅子さんと当番に当たってしまっていてがんばろうね等話し合っていたから。

しかし、当日迄の諸々の手続き等はすべて雅子さんに頼って、私は何の手伝いもしないまゝ当日を迎えた。祭りの両日は樹上の桜と、桜吹雪と、桜の絨毯と迄かないが、ピンクの道で、天気にも恵まれ人々の波で大変賑やかだった。バザーの設置場所も緑道側だったので多くの方達が立ち寄ってくれて、ネパール民芸品等は早々と売れてしまって品不足になってしまったが、飲み物のチャイ、ウーロン茶、蒸しパン等完売、その他バザー用品もよく売れて総収入も約132,000円になり本当にうれしかった。搬入から販売、そして後片けまで色々忙しく動きまわられた皆様さぞお疲れになった事と思います。

感謝をこめて本当に有難度うございました。又、次に向ってがんばりたいとおもいます。

事務局、会計からの報告

内 容	収 入	支 出	その他
別売パウンドケーキ	50500		
ケーキ材料費		30037	
美術工芸キャンドル	4800		
キャンドル仕入		3840	
バザー品・民芸品・他	120780		
地球工房仕入れ		32852	
コーヒー・紅茶・税		11687	
返品送料代		1160	
お礼・お菓子代		3150	高原書店
交通費		1400	駐車代
募金箱	6641		
合 計	¥182,721	¥84,126	

品 目	収 入	支 出	その他
7日 チャイ・蒸しパン	17100		
民芸品・バザー品	65730		
募金箱	6000		
8日 チャイ・蒸しパン・			
ウーロン茶	26320		
民芸品・バザー品	54969		
募金箱	2114		
出 店 料		20000	
蒸しパン等材料費		8568	
ガスボンベ代		3150	
合 計	¥172,233	¥39,894	総収益 ¥132,339

チャリティバザー収支報告書

会 場：高 原 書 店 3f読者サロン

日 付：平成12年12月16日(土)～12月17日(日)

総収益額 98,595円

さくら祭りバザー収支報告書

名 称： さくら祭り

日 時： 13年4月7日～8日(土・日)

場 所： 尾根緑道

担 当 者： 小林(公)・加藤(雅)

協 力 者 齋藤(謹)・今村(旭)・今村(知)・大谷・青沼・和田・中野・沼野・加藤(未)
濱崎・山下・八木・掛川・片岡・福田・岩田・松浦・坂

昨年に比べ陽気が暖かく、葉桜になってしまうのではと心配しつつ当日を迎えたのですが、寒暖の差があった為、ちょうどちり際のさくら吹雪が楽しめた二日間でありました。設置場所も昨年と違い緑道側でしたので、シャトルバスから降りたお客様が大勢こられ買ってくださいました。

支援金・募金をご寄付戴きました方のお名前

平成12年12月～平成13年4月

敬称略、順不動

三津木 洋、齋藤 謹也、高橋 留未、増田 二江、窪田 宣昭、中島 賢・千里、
山内 トヨ子、伊藤 孝子、大谷 和代、鈴木 修子、山下 繁憲、永田 宋典、
築田寺、四つ葉会、リコー光学、美容室 夏奈

この他に、匿名で二名の方からそれぞれ三万円、一万円を戴きました。

又、会報NO.13で匿名の方一名から五千円戴いていましたが、記入漏れがありましたことお詫びいたします。

支援金・募金合計404,140円

田中 美規子、宮窪 千枝子、林 美恵子、根本 紗恵子、ばらそる、浜中 祥子、
新庄 洋子、八木 邦子、石田 一江、住友銀行 社会文化事業室、リコー光学、
四つ葉会

有難うございました。 会計 松浦 陽子



いつかは体験したいと十数年前から考えていた地球一周の旅は5月22日横浜港より約100日間のクルージングにより実現する。振りかえると若い頃から山登りを中心に国内をはじめニュージーランド、アラスカ、スイス、中国、ネパールなど陸への偏りに対して、今回は海から地球をまわりながら、大自然の驚異に圧倒され、異文化にふれて心をときめかせ、違った考え方をもち人たちと触れ合うことによる、地球に感動し地球に学び、各国の人々と交流し、同船の仲間との新しい交流が広まる旅になることを期待し楽しみにしている。当クルージングは観光のみではなく難民への物資援助、内戦復興の子ども達との交流などのボランティア活動も企画されており、これに触れることによりボランティアの新しいあり方や考え方の一端を知る機会にもなるものと考えています。今回長期間にわたり不存することにより会の皆さん方にご迷惑をお掛けしまして申し訳ありません。

<http://www.peaceboat.org/cruise/0105/index.html> 公式ページ

<http://www.ssr.co.jp/mika> ミカの会ホームページで地球一周を洋上より報告

【編集後記】

発行が遅れた事をまずもってお詫びします。夢の記発行など仕事の合間をぬっての作業が思うようにはかどりませんでした。もう梅雨に入りそうな季節。会員の皆様もご自愛され息の長いボランティア活動をすすめて頂きたいと思います。大谷さんの地球一周もホームページでお楽しみ下さい。